

木村定三と熊谷守一をめぐる往復書簡（翻刻）

石崎 尚・福井 淳子（編）

【翻刻について】

本稿は、木村定三と熊谷守一の間で交わされた書簡を元に、一部関係者による書簡を加えて構成し、翻刻したものである。木村定三宛ての書簡は、愛知県美術館に所蔵されている木村定三コレクション関連資料を、熊谷守一宛ての書簡は岐阜県歴史資料館に所蔵されている熊谷守一文書を参照した。後者に関しては『熊谷守一文書目録』¹に従って文書番号を付記した。翻刻にあたっての例言は以下の通りである。

- 一、書簡は日付順に掲載した。
- 二、旧漢字や変体仮名などは文意を損なわない範囲で常用漢字、現代表記等に改めた。ただし固有名詞や慣用句などはこの限りではない。また一部の文語表現に関しては、時代背景を考慮して残したものがある。
- 三、原文には殆どの場合、句読点がないが、本稿では可読性を考慮し、最低限の句読点を補った。同様の理由で、改行については適宜改めた。
- 四、文字の判読が難しい場合、同じ字数分の□をあてはめた。
- 五、明らかな誤字や脱字は〔 〕で補った。
- 六、現在の観点からすると不適切な言葉が一部含まれるが、執筆当時の歴史的背景を配慮して原文のままの表記とした。
- 七、書簡の区別を行うために便宜的に数字四桁の番号を付けたが、この書簡番号はかつてこの往復書簡について言及した論文²での番号とは異なる。
- 八、書簡は書簡番号、差出人と宛名、日付、消印（判読可能なもののみ）、文書番号、内容の順で記載した。封筒に記された住所その他については、木村と熊谷の住所が基本的には変わらないことから割愛し、特に記載すべき内容がある場合は別途註で補った。日付は消印が残っており、かつ判読可能な場合は消印の日付を採用し、そうでない場合は文中もしくは封筒に差出人が記入した日付を記載した。
- 九、書簡中に登場する熊谷作品で同定もしくは推定が可能なもののみ、別途註で補った。特に断りが無い限り、愛知県美術館の木村定三コレクションに含まれる作品を示し、作品名の後ろにコレクション番号を示した。
- 十、文中に登場する人物や話題については適宜註を補った。

1 『岐阜県所在史料目録 第53集 熊谷守一文書目録』岐阜県歴史資料館、2004年。

2 石崎尚「木村定三と熊谷守一」『守一のいる場所』求龍堂、2014年、204～215頁。

書簡〇〇一〇 熊谷守一↓木村定三
昭和十三年二月二八日

拝呈 御手紙有難〔く〕拝見いたしました³。小生丸善個人展の節は有難を〔う〕御座いました。小生「蝦蟆に蟻」⁴の画は名古屋か奈良に有る筈ですが、他に行〔つ〕て居なかつたら問合せまして御送りします。二十六日に当地に帰りましたが毎日氷が張〔つ〕て居ります。先〔ず〕は御返事まで。

十二月二十八日

草々不

木村定三様

机下

熊谷守一

書簡〇〇二〇 木村定三↓熊谷守一
昭和十四年三月九日 消印…14 3 9 文書目録816

拝啓 時下春暖の候と相成り、先生にはいよいよ御清祥の御事と存じます。小生は昨年末、当地丸善画廊における先生の個展の節「蒲公英に蝦蟆」⁵「蝗」「鶯」「蝦蟆に蟻」の四点を買わせて頂きましたが、「蒲公英に蝦蟆」の表装、近日中に出来上りの予定です。ついで箱の蓋を御送り致しますから、御多忙中誠に恐縮に存じますが何卒箱書をしてくださる様御願します。

尚、同個展の際に色紙に御描きになった「金魚」の絵が、若し未だ御手許にございましたら是非小生に買わせてください。それから先生の御気分の良い時で結構ですが「猫」「雨がえる」「げんごろう」「蝦蟆と何か」を二尺位の横物で御描きくださる様御願します。

惟うに先生の絵は形を超越し事物の本質を掴んだ絵であり支那においては

3 「御手紙拝見いたしました」とあるように、これに先立って木村から熊谷に宛てた手紙（恐らくは丸善での初対面の後で、初めて差し出した手紙）があったはずだが、現在は所在不明。
4 《蝦蟆に蟻》（J20020034000）。
5 《蒲公英に蝦蟆》（J20020035000）。
6 この書簡は「熊谷用箋」と印刷された便箋を使用している。

古くは「牧溪〔谿〕」近くは「八大山人」「趙之謙」の如き画家、日本においては「宗達」「蘆雪」近くは芋銭子にして始めて描き得る処であると信じて居ります。実に余韻渺々として興趣の尽きる処がありません。どうか今後時々各地において個展を開催せられ、世人の観賞眼の向上に資せられんことを衷心より希望致して居ります。

もし今後個展を御開催の節はどうか予め御通知くださる様御願します。先〔ず〕は御願まで。

昭和十四年三月八日

敬具

熊谷守一様

侍史

木村定三

書簡〇〇三〇 熊谷守一↓木村定三
昭和十四年三月二日 消印…14 3 22

拝呈 御返事を〔お〕くれまして失礼いたしました。箱蓋御送り下さい。早速箱書して御送りいたします。小生名古屋個展の時の色紙金魚、手許に御座いますから御送りいたします。御申し越しの横物近い内描きまして、出来ましたら御送〔り〕いたします。小生毛筆画の仕事は、手近のものを絵にするだけの事でありますが、木村さんに愛好して戴きます事は私くしの喜びで有ります。

昭和十四年三月二十日よ〔夜〕

草々頓首

木村定三様。

熊谷守一

毎啓 櫻の花も散り

果て、新緑の候となりまゝた先生には益々御健勝の御こと、存じます

扱 先日御願致し

した「猫」「蝦蟇」と何れ「雨蛙」「げんじろう」の画は、未だ一幅も御

出来にならないうでせうか、御伺申上ります小生は、いふ

妹も此日先生の絵

には感服致して居

ます、先般の九番

個展の先生の繪の中

「蟬」と「蝦蟇」の繪は、

が持つて居り、妹は「蛙」

の繪を持つて居ります

小生は「蒲公英」と「蝦蟇」

「蛙」「金魚」の繪を持つ

て居ります、が「蒲公英」と

「蝦蟇」の繪が、一番名画な

りと衆議一決して居ります

こゝから、昔、杜若

あやめの花が咲く季節

となり、が、何卒一枚

こゝから、花を、描い

てくださいます、是非御

願致します

其の他先生の繪は、ど

もこれら名画であり

何十幅、何百幅あつて

も多すぎると云ふこと

があり、まゝから時に、

小折に、ふ、御描きに

書簡〇〇四〇 木村定三↓熊谷守一

昭和一四年五月一日 消印…14. 5. 11 文書目録831

拝啓 桜の花も散り果てて新緑の候となりました。先生には益々御健勝の御ことと存じます。さて先日御願致しました「猫」「蝦蟇」と何か「雨蛙」「げんじろう」の画は未だ一幅も御出来にならないでしょうか。御伺申上「げ」

ます。小生は、はじめ妹も皆先生の絵には感服致して居ります。先般の丸善個展の先生の絵の中「蟬」と「蝦蟇」の絵は、弟が持つて居り、妹は「鶯」の絵を持つて居ります。小生は「蒲公英」と「蝦蟇」「蛙」「金魚」の絵を持つて

居りますが「蒲公英」と「蝦蟇」の絵が、一番名画なりと衆議一決して居ります。これから「杜若」「あやめ」の花が咲く季節となりますが、何卒一枚これ等の花を描いてください。是非御願致します。

其の他先生の絵は、どれもこれも名画であり、何十幅何百幅あつても多すぎると云うことがあります。時にふれ折にふれ御描きになる画は、山水でも静物でも動物でも花でも虫でも何でも結構ですから時々御送りくださ

い。尚先生の如き写生を主となさる方にこんな御願をするのは無理かも知れませんが、どうか「観音様」の絵を一枚書いて戴けませんでしょうか。現

今仏画では京都の村上華岳氏が古今第一なりと思ひますが、御頼みすべき手づるがありませんから。

大抵の画家は「名」は仏画でも「実」は美人画です。真に頭の下る仏画の描ける画家は実に稀です。無理な注文ですが是非引き受けてください。御願致します。

尚失礼ながら「猫」の絵、其の他の分として金三百円也同封致しましたから御受取くださいませ。先生に今後描いて戴く絵の御礼は、大体丸善個展のときの値段を標準として宜しいでしょうか。失礼ながら御伺申します。先

つ「ず」は御願まで。五月十一日 敬具

熊谷守一様 木村定三

侍史

なる一画は山水でも静物でも人物でも花でも蟲でも何でも詰りすから時々御送りください
 尚先生の如き寫生を主となさる方にこんな御願をするのは無理かも知れませんが
 「観音様」の繪を一枚書いて戴けませんでせうか
 現今佛画では京都の村上華岳氏が古今草一なりと思ひますが御頼みすべききづるが
 ありませんから
 大抵の画家は名は佛画でも「某」は美人一画です
 眞に頭下る佛画の描ける画家は實に稀です
 無理な註文です
 が是非引き受けてください
 さい御願致します
 尚先禮作う猫の繪
 其の他の分として金三百円也同封致しましたから御受取くださいませ
 先生に今后描いて戴く繪の御禮は大休丸善個展のとき値段を標準として宜しいでせうか
 失禮ながら御伺申します
 先づは御願まで
 敬見
 五月十一日
 木村定三
 熊谷守一様
 侍史

図17 書簡0040

書簡〇〇五〇 木村定三↓熊谷守一
 昭和一四年五月二四日 消印・14・5・24 文書目録833

拝啓 初夏爽快の候と相成りましたが先生には益々御健勝の御事と存じます。

陳者五月十一日附の書留郵便にて金參百圓也(百円三枚)御送り致しましたが、御受取くださいましたかどうか御伺い申し上げます。

本日丸善の司忠氏に御会いました「熊谷さんに良い絵を描いてためて置く様に御願」して置いた旨申されましたが、是非そうしてくださる様御願申します。本日より丸善にて大澤海蔵氏の個人展があります。なかなか良い絵がある様です。

五月二十四日
 敬具
 定三

熊谷守一様
 侍史

書簡〇〇六〇 熊谷守一↓木村定三
 昭和一四年五月二六日 消印・14・5・26

御手紙拝見いたしました。御依頼の画、未だ出来ませんで失礼して居ります。観音様の絵描かせて戴きます。御同封にて三百円戴きました。有難く御礼申し上げます。今后描かせて戴きます絵、小生丸善個展の時の値段でけっこうで御座います。御依頼の画、出来ただけ次々に御送りします。

五月二十五日
 草々不一
 熊谷守一

8 7 《観世音菩薩》(M211)のことと推測される。
 大澤海蔵(一九〇六—一九七一)は愛知県出身の洋画家。光風会および日展で活躍。鬼頭鎬三郎や松下春雄らの結成した洋画グループ「サンサシオン」の中核メンバーであった。

木村定三様

二伸

小生処、今度表記新番地⁹に改正に成りました。¹⁰

書簡〇〇七〇 木村定三→熊谷守一

昭和一四年八月九日 消印・14・8・9 文書目録858

拝啓 時下酷暑凌ぎ難き折柄 先生には其の後御変り無之候や御伺申上候

陳者 小生最近 小川芋銭先生の絶筆に近き絵¹¹を入手致候

古沼に水藻と目高三匹とげんごろう虫二匹とを描いたものにて 実に芋銭子の真面目を發揮せるものと愛蔵致し居り候 小生最近殊に芋銭子の偉さに感服致し居り候も 芋銭子無き現在 芋銭の如き至純至誠禅味横溢せる名画を描き得る画家は 熊谷先生を措きては他に絶無なりと確信致し居り候

甚だ失礼乍ら同封の金子にて 画題は何でも宜しき故三、四枚御描き被下度 此段御願申候 勿論期間に制限は無之 御気分宜しき折にて結構に御座候

尚今春御願申候 猫 蝦蟆 雨蛙 観音様等の絵 若し一枚にても出来居り候わば御送り被下度候

時節柄御自愛の程御願申候

八月八日

敬具

木村定三

熊谷守一様

侍史

書簡〇〇八〇 木村四郎→熊谷守一

昭和一四年八月二五日 消印・14・8・25 文書目録861

拝啓 私には先生には一面識もない者です。私の兄定三は先生に一度会って居ります。以来先生を「がま」仙人と称して非常に尊敬して居ます。私も兄の好意により御作の「がまと蟻」の傑作を割愛され日夕座右に掛けさせて頂き心の慰と致して居ります。見れば見る程真に迫るを感じるにつけ小生もかくの如き人物たらんと鞭撻致して居ります。兄も「やって惜しくなった返せ」といいましたが「一生返せん」といったら先生に御無理をいつてがまの絵を頼んだ様です。先生の御返事のないうちは外出から帰るとすぐ「守一さんから返事がこんか」と聞き、その後信州へ旅行に行きましたがその間でも「うちからまだ守一さんの手紙がきた」といつてこないなあ」といつていた程です。私も先生にお願い致したいことがあるのです。私はどうしても先生の柿の絵¹²が欲しくなりません。実は先日丸善へ兄と行つた時、司さんのお持ちになる先生の柿を拝見して以来先生の柿がほしくてならなくなりました。これも私自身柿が好物である外に亡父翁が又好物で私を大垣へ連れて行つて食わしてくれたり宴会などに出たのを残してきてくれたりして私を可愛がつてくれました。私は末っ子のせいか父が一番なつかしいです。そして私は父を想う毎に柿を連想する次第です。先生どうかどんなものにもよろしいから是非柿の絵を描いて下さい。私には先生の絵が最も父の精神に似つかわしく思われます。甚だ勝手がましいことを申し上げますがなにとぞお願いします。

四郎拝

守一先生

机下

9 この年に行われた豊島区の町名変更・地番整理に伴い、「豊島区長崎仲町一ノ二六九二」だった熊谷の住所が、この書簡より新番地の「豊島区千早二ノ一八」に変更になった。

10 この書簡は「熊谷用箋」と印刷された便箋を使用している。
11 《古沼や》(M183)のことと推測される。当館では制作年不詳としているため、木村がこの作品を絶筆に近しいとした理由は不明。芋銭は昭和十三年二月一七日に死去したため、この書簡が記された約八カ月前に没したことになる。

12 《柿》(M2460)のことか。

書簡〇〇九〇 熊谷守一↓木村定三

昭和一四年九月九日 消印・14 9 9

拝呈 八月八日の御手紙拝見いたしました。同封小切手戴きました。有難を〔ご〕御座います。小生旅行中にて其后ふ性〔不精〕しまして、甚だ御返事を〔お〕くれまして失礼いたしました。小生其后毛筆画にふ性〔不精〕をして描かずに居りましたが、これから描きますからお目に掛けます。此夏は天氣が続きましたが雨は夕立位でした。只今も天氣が続いて居ります。

頓首

九月八日よ〔夜〕

熊谷守一

木村定三様

侍史¹³

書簡〇一〇〇 丸善株式会社名古屋支店美術係 木内憲次↓熊谷守一

昭和一五年一月一九日 消印・15 1 19 文書目録871

熊谷守一先生

恭賀皇紀二千六百年の新春 其後御無沙汰のみ仕り失礼仕候 益々御元氣にて御越年遊ばされ候御事と御喜び申上候 当方も御蔭様にて順調に進み居候間御放念願上候 さて先年当店にて御催し下され候個展の際に御出陳の色紙にて「木村定三様」御買上げの「金魚」此程表装出来致し箱書をお願い致し度き由にて 昨日同氏御持参相成候間 早速御送附申上候間 御多用中甚だ申兼ね候えども宜敷く御願ひ申上候

13 この書簡は「熊谷用箋」と印刷された便箋を使用している。
14 「富士にヒルガオ」は同展出品目録「熊谷守一 油彩画全作品集」求龍堂、二〇〇四年、三九一頁）の中の「富嶽に蕃南瓜」に該当すると思われる。これは《富士山に蕃南瓜》（M236）の、と推測される。

15 「桑畑」については、次のような木村の回想が残っている。
「なお昭和十四年に二科会展が名古屋で開かれました。その時の熊谷さんの出品が三点で、その中の「麦畑」という六号の画に赤札をつけさせて貰いました。それが号四十円でした。他の一作「桑畑」は、大阪のメリヤス王といわれていた故山本発次郎さんが大阪の展覧会で買いました。その山本さんはモジリアーニの「裸婦」の絵を持っているので有名でした。もう一点は「岩殿山」という画ですが、それは故湯沢三千夫さんが買いました。湯沢さんは戦前内務大臣をやった人で、熊谷さんの自画像「ロースト」を持っていた有名です（『新美術新聞』美術年鑑社、一九七二年一月一日号）。
つまり木村は《麦畑》（M279）を入手後に《桑畑》も欲しくなったので木内を通じて打診したところ、そちらは既に山本発次郎の手に渡っていたという事であろう。

尚個展の折の作品にて「富士にヒルガオ」¹⁴及「けし」の色紙御手許に有之候わば御頒ち願ひ度き由木村様より依頼有之候 又昨年二科展に御出陳の作「桑畑」¹⁵は既に御頒済みに候や もし御手許に候わばこれ又木村様御所望に候間 御手数ながら当方宛御送り下さらば幸甚に御座候

木村様は非常に絵画を愛し又よく理解致され居り候 特に先生の御作には一層愛着深き様存じ候 展覧会毎に御出掛け下され 其の都度先生の御うわさ申上げ居り 又名古屋での個展をと望まれ居り申候 極寒の折一重に御自愛の程御祈り申上候 御多用中恐入り候えども右御願ひ申上候

敬具

熊谷守一先生

丸善支店美術係 木内憲次

二伸

木村様より直接御注文申上げ候日本画 いつごろ完成なりや 一寸ついでに御伺い下さる様申され候間申添え置き候

書簡〇一一〇 熊谷守一↓木村定三

昭和十五年五月一七日

拝呈 御ぶさたして居ります。昨年御依頼下さいました拙画も永引〔長引き〕まして失礼して居りましたが、先使小包にて十葉御送りしました。

今度奈良の濱田氏¹⁶の御世話で大阪梅田の阪急百貨店で、小生毛筆画展の第二回目を、五月二十一日から二十五日迄開催の事に成(つ)て居ります。点数三十余点描きましたが、濱田氏評には第一回の時より大味との通信がありました。今度小生大阪阪急毛筆画展、どんなに見えますか小生も行(つ)て居ります。

五月十七日夜

草々不

木村定三様

熊谷守一

書簡〇一二〇 木村定三↓熊谷守一

昭和十五年五月一九日¹⁷ 文書目録978

拝啓 其の後は意外の御無沙汰を致し失礼の段御寛容被下度候 先日はずり御願致候先生の毛筆画十点御送付くだされ有難く御礼申上候 十点中特に小生の好きなものはしりはさみ 蛙子¹⁸ 雨蛙 観音等に御座候 尚御芳書に依れば五月二十一日より大阪阪急百貨店にて毛筆画個展開催¹⁹の由、大に期待致し居り候 小生も多分二十三日拝見致す予定に御座候 名古屋にて毛筆画と油絵と半分宛の個展でも御やりになれば大に有

意義なりと存じ候 近來小生知人間にも先生の絵の愛好者が増加し愉快に存じ候

先日当地丸善並に株式取引所において森田茂氏²⁰の洋画展開催せられ候同氏は先生の御宅の近く由 且絵も力強く脱俗的にして頗る気持良く前途有望なる画家なりと存じ候 展覧会は大分の好成績にて愉快に存じ候何れ大阪にて御目にかかり色々御話承りたく存じ候 先づ(ず)は御礼まで五月十九日夜

熊谷守一様

侍史

敬具

木村定三

木村定三

書簡〇一三〇 木村定三↓熊谷守一

昭和十五年五月三〇日 消印・15. 5. 30 文書目録994

拝啓 其の後は長らく御無沙汰致しましたが皆様御変りなきことと存じます。先日は阪急百貨店にて個展を見せて頂き有難うございました。何時もながら形を超越し事物の本質を掴んだ絵に感服しています。小生の最も印象に残っているものは鳥二点、蝦蟆二点、金魚、鯰、梅、虎猫等です。名古屋丸善に本日起き先生の個展の話をして参りました。時季は今秋十一月頃が良いと思います。何れ丸善木内君から詳しく日取りは御通知することと思ひますがその御心算で、今からはつばつ良い絵を描きためて置いてください。洋画も是非数点御出品ください。

尚御多忙中甚だ恐縮に存じますが九州の阪(坂)本繁二郎氏に²¹、大きさは六号位で何か馬の絵でも描いて頂く様に頼んで頂き度く思います。小生阪

¹⁶ 濱田葆光(一八八六―一九四七)は高知県出身の洋画家。二科会に所属し、熊谷の最初の日本画展の世話をした。

¹⁷ この書簡は前掲『熊谷守一文書目録』では日付が昭和十五年五月一三日とされているが、原本の封筒では正確には消印が確認できず、また文中には昭和十五年五月一九日と書かれていることから、書簡の前後のやりとりを考慮して五月一九日のものと判断した。

¹⁸ 《蛙子》(M193)のことか。

¹⁹ 「第二回熊谷守一画伯日本画展」(大阪阪急/五月二一日―二五日)のこと。

²⁰ 森田茂(一九〇七―二〇〇九)は茨城県出身の洋画家。昭和十五年頃から要町アトリエ村にアトリエを構えていた。

書簡〇一五〇 丸善株式会社名古屋支店美術部 木内憲次↓熊谷守一
昭和十五年九月二日 文書目録1091

〔坂〕本さんの洋画は大変好きで是非一枚欲しいと思いますが、手に入
れる機会無く甚だ恐縮乍ら先生に御頼みする次第です。
先づ〔す〕は御願まで。末筆乍ら皆様は何卒宜しく。先日奈良濱田さんから
御端書を頂きました。

敬具

五月二十九日

木村定三

熊谷守一様

侍史

熊谷守一先生
拝啓 いよいよ秋の好期節と相成り申候 益々御元氣にて御精出の御事と
御喜び申上候
先般一度御相談申上候も 今秋十一月中旬頃先生独特の新毛筆画展 御開
催有之候では如何かと存じ候 木村氏等は非常に希望致し居り候 御都合
御一報下さらば幸甚に御座候

敬具

名古屋丸善支店美術部

木内²²

書簡〇一四〇 熊谷守一↓木村定三

昭和十五年六月二〇日 消印…15. 6. 20

書簡〇一六〇 木村定三↓熊谷守一

昭和十五年九月三日 文書目録1093

拝呈 其后皆様ご無事の事と存じます。先達はわざわざ阪急小生個展見て
戴きまして有難を〔う〕御座いました。名古屋丸善に小生個展の御話し下さ
いまして有難を〔う〕御座います。絵の方も今からぼつぼつ描きためて置き
ます。

九州の阪〔坂〕本の絵中々出来ないらしいのですが小生より手紙で云うて置
きました。其后干天続きでしたが一昨日雨か〔が〕有りましたが水道は未
〔だ〕朝夕二時間丈〔け〕出て居ります。小生写生する物か〔が〕多いのでま
まこして居ります。

草々不一

六月一九日よ〔夜〕

木村定三様

先日大阪阪急百貨店にての個人展にては小生の記憶にて名品と考え候もの
は烏（二点共）金魚 鯰 蝦蟇 梅 虫等にして 概して横物に名品多く
豎の絵は概して散慢の嫌有之やに存じ候
今回の名古屋個展は横物を多くし画題も豊富に 鳥 虫 花 動物 風景
仏画等点数多く御描きくださる様御願申候 尚洋画も二、三点是非御描き

21 封筒に熊谷メモ「阪本画、返」あり。坂本繁二郎（一八八二—一九六九）は福岡県出身の洋画家。熊谷や同郷の青木繁と親しく交流した。

22 封筒に熊谷メモ「十一月中旬、返」あり。

23 熊谷の還暦記念展示は東京会場のみで、巡回展では展示されていない。

被下度候

尚小生の御願に御座候も 個展とは別に不動尊の絵²⁴ 豎幅にて是非御描
き被下度御願申候 先般御描き願候観音像を双幅に致し度存じ居り候
兎に角今度の先生の個展には大に期待致し居る者多²⁵数有之候間 名品を多
数御出品くださる様御願申候 末筆乍ら皆様に宜しく御伝声被下度候
九月三日

敬具

木村定三

熊谷守一様

侍史²⁵

書簡〇一七〇 熊谷守一↓木村定三 消印…15. 9. 7
昭和一五年九月七日

拝呈 御手紙有難く拝見いたしました。御上京の御様子喜んで居ります。
小生ロヲ屋(陋屋)も見て戴きます。小生十四日午后一寸用事が有りますが、
其他の日なれば(ば)何時でも御上京日取り御通知有ります。是れは(ば)美術館
に行(つ)て居ります。今秋丸善で開いて戴きます個展何んな画が小生描け
ますか。小生出来ます丈つとめて描きます。小生どんな画になりますか、
小生も其れを樂(し)みにして居ります。皆様に宜しく御伝え下さい。

草々不一

九月六日

熊谷守一

木村定三様

書簡〇一八〇 木村定三↓熊谷守一

昭和一五年九月九日 文書目録1099

拝啓 御手紙有難く拝見仕候 小生九月十二日午前中に府美術館にて御目
に掛り度存候間何卒宜しく御願申候 当地最近殊の外暑熱厳しく閉口致し
居候も 御地は如何に御座候や 時節柄御自愛の程御願申候

敬具

九月九日

木村定三

熊谷守一様

侍史

書簡〇一九〇 木村定三↓熊谷守一
昭和一五年九月一九日 消印…15. 9. 19 文書目録1108

拝啓 時下秋涼の候と相成り御高堂益々御清栄之段奉賀候 陳者小生上京
に際しては二科展 院展 新制作展 博物館等御案内被下御厚情の段厚く
御礼申上候
小生の考にては近來絵の展覧会において頭に残るが如き品格と深みと中味
のある絵を発見することは至難に御座候 画家は須く技を練るよりも人格
を作るべく努力せざれば美術の向上は絶対不可能と存じ候
實に例えば今年の院展より名画を求むるは土中に黄金を採すより難事に御
座候

今秋の先生の個人展は皆大に期待致し居り候間 何卒名作数多御出品の程
御願申候 先生との将棋は大に愉快に有之候 他日又一戦を交え度存じ居
候 末筆乍ら皆様に宜しく

敬具

九月十八日

定三

24 《不動明王》(1201)のいこと推測される。
25 封筒に熊谷メモ「丸善展 返」あり。

熊谷守一様

侍史

書簡〇二〇〇 熊谷守一↓木村定三 消印…15 10 25

昭和十五年一〇月二五日

拝呈 小生名古屋丸善毛筆画個展十一月中旬でしたが、作品当地でうらうちして居りましては天気都合も有りますから、名古屋でうらうちいたしたいと思つて居りますから、御めんどを(う)ですが、作品木村さんへ来月始め迄に二、三回に御送り至(致)しますから、御知り合表具屋でうらうちして(かり巻下棒太めの者(物)付(け)まして)別に箱書の桐表板用意いたす様、御申し置き下さい。別に油画小品三、四点出品出来ます²⁶。其れは個展開きます日がきまります(は)、其れ迄に丸善宛(にお)送りしますか、或は小生名古屋に出ます時持参いたします。御都合御聞かせ下さい。

草々不一

十月二十五日

熊谷守一

木村定三様

書簡〇二一〇 木村定三↓熊谷守一

昭和十五年一〇月二八日 消印…15 10 28 文書目録1159

拝啓 其の後久しく御無音に打過ぎ失礼致候処 御高堂益々御清栄之段奉賀候

陳者先日は御芳書を頂き 本日早速丸善木内君に面会し展覧会日取り尋ね候処 熊谷先生の個展は十二月三日より七日まで五日間の会期に決定致し居る由に御座候間 左様御含み被下度候 尚絵の表具並に箱蓋は小生知り合の表具師に命ず可候間 絵の出来次第順次に小生宛にて御送付被下度候

今度の個展には小生知人間にも希望者多数有之候間 なる可点数多く御出品被下度候

先日個展とは別にて御願申候御不動様の絵 若し出来居れば一緒に御送付被下度候

尚小生知人にて先生の仏画を望み居る者一人有之候間 若し出来れば個展画中に観音様か何か仏画一、二点御描き被下ば幸に存じ候 末筆乍ら皆様宜しく御伝声被下度候

敬具

定三

十月二十八日

熊谷守一様

侍史

書簡〇二二〇 丸善株式会社名古屋支店美術部 木内憲次↓熊谷守一

昭和十五年一〇月二九日 文書目録1161

熊谷先生

拝啓 秋も深くなりました。御無沙汰のみ致し失礼申上(げ)て居りますが御変りもないことと存じ上げます。

毛筆画展開催いただきますについて、目下の処名古屋は非常に沈滞気味なので皆様と相談の結果先般御知らせ申上げた時期は思わしくないと申御座いませが右の様に變更させていただきます。十二月二日に陳列致し三日より五日間と決定いたします。木村様も非常に御熱心に御助力いただいて居ります。急に変更など致し申訳ありませんがどうか右了承願います。会場の図面同封致しました。

敬具

美術部 木内

26 油絵は《高原》(1926)、『高原ノ道』(1926)、『石堤』の三点が展示された。

書簡〇二三〇 熊谷守一↓木村定三 消印…15. 11. 12
昭和十五年一月二二日

先便有難を(う)御座いました。本日小生毛筆画二十四点書留小包で御送り至(致)しましたから宜しく御ねがいたします。あと亦描けただけ御送りいたします。

十一月十二日

草々不一

書簡〇二四〇 木村定三↓熊谷守一
昭和十五年二月二五日 消印…15. 11. 15 文書目録1189

拝復 御端書に依れば先生の毛筆画二十四点十一月十二日書留小包にて御送付被下候由に御座候も 本日(十五日夜)に到るも未だ到着致さず候間念の為御伺申候 尚丸善木内君より今度の個展の目録(題名等)一寸早目に知り度き旨申し来られ候

書簡〇二五〇 木村定三↓熊谷守一
昭和十五年一月一七日 文書目録1192

拝啓 連日好天続きにて皆様御変りなきことと存じます。
本日(十七日)朝小包到着致しました。消印には十二日となっているのに意外に延着して不思議に思っています。御作品早速拝見致しました。
左記の絵は良い絵だと思えます。

- 一、梅鉢草 一、麗春花 一、月見草
- 一、どくだみ 一、群鳥 一、双鶏
- 一、松虫草²⁷ 一、蝦蟆(一匹の方)
- 一、紅梅 一、こおろぎ

等です。「畝傍山」「山水」等の絵は一寸解り難いと思います。猫も大猫を御描きになるより小猫の方が可愛らしくて良いと思います。

鳥、鯉等も墨一色で無く淡彩、或は淡彩の附加物のある方が面白いと思います。

今春の大阪の個展の際では、金魚、鳥(大根の干した処へ止っている絵)、蝦蟆(小さい方)、白梅等名品だと思えます。前の名古屋の個展の際では熊蜂、蒲公英に蝦蟆、雨蛙、しりはさみ等今尚記憶に新です。

此の後に御描きになる分には是非金魚や雨蛙や蜂、蝦蟆(成るべくならば少し小さく御描きになる方が良いと思えます)、その他虫の類を主としたものを御描きくださると結構だと思えます。概して云えば横物の方が面白と思います。木内君の話では展覧会は丸善の日本間の方で三日より七日までの予定の由ですが、目録の印刷の都合上並に絵の表具(仮り捲き、箱蓋用意)の都合上一寸早目に御送付くださる様御願致します。

今度の絵の中の「牛」は一寸牛がこみ過ぎていると思えます。大阪個展の横物の虎猫は面白いと思えますが名古屋の分にも横物にて猫を二、二点御描きになつては如何でしょうか。其他蟬螂とか蟻とか蛙子とかしりはさみ等、先生で無ければ描けない物を小品にても結構ですから御描きくださる様御願致します。

熊谷守一様
侍史

敬具

木村定三

書簡〇二六〇 熊谷守一↓木村定三
昭和十五年二月九日

拝呈 今度名古屋小生毛筆展にいろいろ御世話下され有難を(う)御座いました。昨朝八時の汽車で、昨夕帰(毛)いたしました。当地は風が吹いたりして居りまして寒々とした景色ですが、御存じの小生室で皆様の事思い出し

27 書簡〇二二〇の毛筆画展の出品目録のなかに「松虫草」は見当たらない。

て居ります。皆様に宜しく御伝え下さい。

十二月九日

草々不

木村定三様

熊谷守一

書簡〇二七〇 濱田葆光↓熊谷守一

昭和十五年二月九日 消印…15. 12. 9 文書目録1232

御書面拝見いたしました。旅に出られ、御不自由な亦平素と違った生活を続けられて御疲労の御事と存じます。木村様へ猫の画²⁸御送り致します件、拝承いたしました。外箱を作り、出来次第に発送いたします。今度描かれました不動尊²⁹は深く脳裡に刻まれ感心いたしました。感興の湧かれました時、私にも是非描いて頂き度く御願ひです。

書簡〇二八〇 木村定三↓熊谷守一

昭和十五年二月二日 文書目録1238

拝啓 最近寒気相当厳しく相成候も御高堂皆様には御変り無きことと存じ候。過日の先生の毛筆画個展は頗る有意義にて反響多大に御座候。先生の絵を買った人は皆大に喜び居り候。

小生も今回先生の名作を一举に八点入手出来心楽しく存じ候。

尚会期中拙宅にて箱書やら書やらを多数御書き被下御厚情の程奉^{しんせたまつり}深謝候。

尚先生の絵を買った人にて更に先生の絵を是非希望致すもの二、三有之候。

御閑の折是非御描き被下度候。

猪飼君 とんぼ 雨蛙

石田君 不動明王

吉田君「熊蜂に豆の花」の絵

右の諸君には小生より先生の絵は同じ絵は絶対二枚とは出来ない理由説明致し皆承知致し居り候間。図柄感じ等相違致し居りて結構に御座候間。描いて御やり被下度候。

尚小生の御願に御座候も地藏菩薩 鬼 松虫草 撫子の絵の四点を御描き被下度候。鬼の絵は一匹にても二匹にても赤にても青にても結構に御座候も。悪の権化としてのものでもなく愛すべき存在としてのものを御描き被下度候。或は仔鬼など面白きかと存じ候。

松虫草は横幅にて 矢張り蛇の止っている処を御描き被下度候。撫子も横物にて御描き被下度候。個展の撫子は大に良き絵と存じ候。

今後小生上京の折には是非毎時も御伺致し度存じ居候。先生も当地に御光来の節は是非御立寄被下度候。

個展の最後の日には小生風邪にて臥床し御目に掛れず失礼致候。今後寒気厳しき折柄御自愛の程御祈り申候。

十二月十二日

敬具

定三

熊谷守一様

侍史

書簡〇二九〇 熊谷守一↓木村定三

昭和十五年二月二四日 消印…15. 12. 24

拝呈 御手紙有難く拝見いたしました。御宅皆様如何で御座いますか。小生相変らずて〔て〕御座います。御手紙に有りました木村さん始め皆様の画、閑を見て描きます。鬼の画は一寸描きにくそを〔ん〕に思えますが如何ですか、やって見ます。御上京の折御立より下されます由喜〔ん〕で居ります。小生名古屋へ参りました時は伺わせて戴きます。奥様に宜しく御伝え

28 「猫」は一九四〇年五月、第二回日本画展出品作のことか。
29 「不動尊」は一九四〇年二月、新毛筆画展出品の半切「不動明王」のことか。

下ゆい。

十二月二十四日

草々不

木村定三様

熊谷守一

書簡〇三〇〇 木村定三↓熊谷守一

昭和一六年一月九日 消印…16. 1. 9 文書目録1302

紀元式千六百第一年の新春を御祝申上ます。

本年は正月元旦以後誠に暖き日が続き春三月頃の如き感じが致します。皆様には御元氣にて新春を御迎えなされた事と存じます。

小生宅においては去る十二月十九日には妹が死亡致しました。本年正月五日には愚妻が男児を出産致しました。

妹の死亡は全く予想外にて氣の毒に思つて居ります。

尚昨日奈良の濱田さんより熊谷先生の猫の絵を送つて頂きました。大変好きな絵です。表装と箱を変える積りです。

此の猫の絵の代金を御送りしたいと思ひますから何卒金額を御知らせ下さい。

先日当地帝大病院勤務のお医者さんが小生宅へ参られて先生の話を致し丸善にて洋画(菊のある風景の絵)を買つて行きました。或は既に先生の御宅へ御伺(い)なされたかも知れません。先生の洋画は既に十年程前から注意して見ているとのことでした。

時節柄皆様御健康に御注意下さい。

一月九日夜

敬具

木村定三

熊谷守一様

侍史³⁰

30 封筒表に熊谷メモ「返」あり。

書簡〇三一〇 熊谷守一↓木村定三

昭和一六年一月三日 消印…16. 1. 13

拝呈 御令妹御永眠のを(お)もむさまことに御淋しき事に御座います。御冥福を御祈り至(致)します。

正月に男の子御出生の由御喜び申し上げます。

小生大阪展の猫の絵は六拾五円で御座いました。先日名古屋帝大病院の方に御会いたしました。今冬は当地とてもあたたかです。

昭和十六年一月十二日

敬白

木村定三様

熊谷守一

机下

書簡〇三二〇 木村定三↓熊谷守一

昭和一六年一月二七日 消印…16. 1. 27 文書目録1311

熊谷守一様

侍史

拝啓 其の後御無沙汰致しましたが皆様御変り無き事と存じます。

先日濱田さんより御送りくださいました猫の絵の代金六十五円也為替にて御同封致しましたから御受取ください。

定三拝

書簡〇三三〇 熊谷守一↓木村定三

昭和一六年二月一日 消印…16. 2. 1

拝呈 御手紙有難を(う)御座いました。御送付の為替金戴きました。先日友人北川氏³¹と瀬戸へとをき(陶器)に画を描きに参り(横井氏³²も参られました)、名古屋へもよりまして御宅へも御伺いしたいと思いましたが、あわただしく帰京いたしまして残念でした。御宅の赤ちゃんも御可愛らしい事と存し(じ)ます。小生近い内雪描きに行く事に成(つ)て居りますが寒いのでいち(じ)けて居ります。

二月一日

木村定三様

草々不一
熊谷守一

書簡〇三四〇 双弦会 東本春水↓熊谷守一

昭和一六年二月六日 消印…16. 2. 6 文書目録1316

拝呈 先般は遠路わざわざ御越し下され終日陶画につくされさぞお勞(疲)れのことと拝察申します。何のおもてなしも出来ず充分のお礼も出来ず失礼いたしました。その上御親切なる御便りに接し重々お礼を申します。雪中の陶画三昧も実にはたのしい想出です。又昼のうなぎのうまかったこと、先生に朝鮮五目を教えていただいたことなどなつかしくたのしい想出の数々です。

暮も今度お拝眉の折はもつと強くなつておくつもりです。志野善九氏はすでに作品にゴスをかけ焼きへ廻したとか、先生方のお作が評判で毎日お客がおしかけて善九庵が賑つたとかうれしい便りです。

四月の発表が待たれます。その折は是非御来遊下さるよう是非是非北川先生と御一緒に御待ち申しています。奥さまへよろしく御伝え下さいませ。

敬具

熊谷守一先生

書簡〇三五〇 木村定三↓熊谷守一

昭和一六年三月一〇日 消印…16. 3. 10 文書目録1328

拝啓 時下春暖の候と相成り御高堂益々御清栄之段奉賀候

陳者先日は御多忙中を御伺致し 書の御揮毫を御願致し有難く厚く御礼申上候 岡島君其の他知人に分配致候

尚本日は「みづゑ」³⁴を御恵与被下恐縮至極に存じ候 四月の先生其の他の焼物展は今から大に期待致し居候 他日先生御手造の茶盃 皿 盃等の展覧会を御開催の程小生等希望致し居候

尚石田君(御不動さんの絵を御願致したる者)の依頼に御座候え共「げんごろう虫」の絵をも御描きくださる様先生に御願致し呉れと申し居候 御閑暇の折同君の為に御描きくだされ度候

尚小生も先生の日本画は名作 壺百点蒐集の望に御座候間 題材の如何大さの如何を問わず面白きものの御出来の節は御送り被下度候

先つ(ず)は御礼まで 末筆乍ら奥様始め皆様に宜しく御伝声被下度候

敬具

木村定三

三月十日

熊谷守一様

侍史

31 北川民次(一八九四―一九八九)は静岡県出身の洋画家。二科会に所属し、東海地方の洋画壇に大きな足跡を残した。

32 横井礼以(一八八六―一九八〇)は愛知県出身の洋画家。本名は禮一。二科会で活躍した。書簡〇三六〇にあるように一九五四年以前は禮市を画号としていた。

33 東本春水(一九一〇―一九八八)は大分県出身の洋画家。北斗会に所属し一九三五年以降二科展にも出品した。

34 熊谷守一を特集した雑誌「みづゑ」(美術出版社、一九四〇年二月号)のこと。

書簡〇三六〇 東本春水方 双弦会↓熊谷守一
昭和一六年四月一五日 文書目録1346

趣味の陶画三味展

萬華爛漫の春もたけなわのとき、銃後日本の健全なる美術文化昂揚のため、ここに二科会員熊谷守一、横井禮市、北川民次の三先生を聘して趣味の陶画三味展を開催いたします。

熊谷先生の流麗豁達、鉄斎をしのぶ雄渾の筆致、横井先生の日本画的清澄透徹の境地、北川先生のエキゾチックな風俗、巧緻な画面構成等、必ずや御鑑賞諸賢をしてさびを愛する日本の情趣、閑雅寂然の中に、馥郁たる芸術の三味境に至らしめ、低徊去るを得ないものがありましよう。そして又今春美術鑑賞界での最も興味ある話題ともなりましよう。

何卒左記に依り御家族御同伴にて御来鑑の栄を賜るよう御案内申しあげます。

昭和十六年四月

敬白

名古屋市昭和区若柳町一―二〇 東本春水方
主催 双弦会

記

趣味の陶画三味展

一、 会場 広小路丸善日本館（会場入口は明治屋角を南呉服町筋南へ入る西側）

一、 会期 昭和十六年四月二十二日―二十三日（招待日）
四月二十四日―二十六日（公開日）

一、 作家 二科会員 熊谷守一先生

同 横井禮市先生

同 北川民次先生

小品 双弦会会員 東本春水

同鈴木夢平

作陶 善九庵 村瀬善九³⁵

一、作品 花瓶 三十点 飾皿（果実盛）三十点

輪立 三十点 抹茶々碗 三十点

德利 六十点 菓子器 三十点

盃 二百十点

趣味の色紙（表装掛軸付）三十点

以上³⁶

書簡〇三七〇 双弦会 北斗会 東本春水↓熊谷守一

昭和一六年五月三日 消印…16 5 3 文書目録1358

拝呈 先般はわざわざ御来名下され厚くお礼を申しあげます。何の、そして充分の御接待も出来ず甚だ恐縮に存じます。

汽車の旅も混んでいましたのでさぞお勞（疲）れだったことでしょう。お蔭をもって双弦会「趣味の陶画三味展」もすみまして多大の反響を呼びました。先生方のお作二、三点贈呈いたしたく私方で保管してあります。北川先生御来名の折おあつらえいたします。

次に来る十三日より丸善日本館において双弦会（第四回）日本画展を開催いたします。つきましては別途御送附申しましたる尺八横物二枚及び利休屏風張合わせ（二曲一双）用の色紙（四点）扇面大小（各四点）短冊（四点）特別賛助にて御描き下さるようお願い申し上げます。尺八横物一枚、色紙扇面短冊一枚（づ）づつ余分を入れておきました。

展鑑のお作は全部私達双弦会のお引受でお礼をさせていただくことになっています。

何の絵でもいいです。屏風へはこう云う風に張り合わせする予定です。短冊等へは字をかいただいても結構です。例えば俳句など。又は「春花」「夏雲」「秋月」「冬雪」等とかいていただいても面白いと思います。又は屏風の片面ずつ（四枚）を春、夏、秋、冬、にちなんだものでも面白いで

35 コレクションには村瀬善九（生没年不詳）が作陶し、熊谷が絵付けした作品が「二匹かまきり」（A20020004000）ほか計六点ある。恐らくはこの時の出品作であろう。

36 これは印刷された案内状である。封筒裏に熊谷メモ「毛五月中二三枚」あり。

すが、仲(中)々お骨もおれましようから何でも極(く)気楽に御自由に軽い
気持でお願い申します。

北川先生のはメキシコの男女をあつかった作を枕屏風にしました。横井先
生も日本画賛助出品していただきます。

十日の日に北川先生が御来名されますので九日夕までに甚だ恐縮ですが速
筆御完成の程願ひあげます。

いづれ又御拝眉の上重々お札を申しとう存じます。先生に云われて北川先
生とみに舞妓を描きたがつています。もし実現すれば北川先生とのお約束
で本年の二科へは熊谷先生は百号をかなければなるまいと一同御期待申
しています。

奥さま外御一同さまへどうぞよろしく。又近い中御出(で)下さるようお待
ち申しています。

二日

熊谷守一先生³⁷

東本春水

書簡〇三八〇 熊谷守一↓木村定三

昭和一六年六月二八日

拝呈 大阪小生個展³⁸のせつは御出張下され有り難を(う)御座いました。
亦名古屋でも御世話に成りまして有難を(う)御座います³⁹。奥様始め皆様
にも宜しく御伝え下さい。木村さん所の赤ちゃんの可愛らしいのを只今も
思い出して居ります。当地は雨続きで御座いますか(が)小生相変らずで
(で)御座います。

六月二十八日

草々不一

木村定三様

熊谷守一

書簡〇三九〇 木村定三↓熊谷守一

昭和一六年七月四日 消印…16. 7. 4 文書目録1403

拝啓 其の後は大変御無沙汰致しましたが皆様御変り無きことと存じま
す。当地は連日暑くて殊に夜などは蒸し暑くて寝られなくて困ります。

先日瀬戸にて先生に絵を描いて頂きました志野の茶盃の中四個⁴⁰が焼き上
りましたが、蠅螂の茶盃が一番良い出来です。後の分を楽(し)みにしてい
ます。赤坊(篤夫)も毎日元気に遊んだり泣いたりしています。皆様に何
卒宜しく。

敬具

木村定三

七月四日

熊谷守一様

侍史

書簡〇四〇〇 木村定三↓熊谷守一

昭和一六年九月八日 消印…16. 9. 8 文書目録1457

拝啓 其の後は長らく御無沙汰致しましたが皆様御変りありませんか御伺
申上ます。家の赤坊も大分大きくなり歯も二本生え何でも口へ入れ様とし
ますので眼が離せません。

其れから今年の二科の先生の出品画桃はまだ売れていませんでしたら小生
が買わせて頂き度(く)思います。今年の御出品は一点のみですか。小生雑

37 書簡に熊谷メモ「春花、夏雲、秋月、冬雪」あり。

38 「大阪個展」は一九四一年六月二日から一五日まで、大阪阪急で開催された「第三回熊谷守一画伯日本画展」のこと。

39 同年五月一五日から一七日まで開かれた「第四回双弦会日本画展への賛助出品」に際して、木村邸に宿泊したのだと推測される。
40 「志野の茶盃の中四個」は、「かまきり」(M771)、「蝸牛」(M769)、「熟柿」(M770)、「紅梅」(M768)のことと推測される。つまり、これら四点は全て一九四一年の作と考えてよいだろう。

用ありて上京できず二科や院展を見られないで残念です。名古屋へ来るのを楽(し)みにしています。

日本画の方も其の後未だ何も出来ませんか、もし出来ていたら僅かでも御送り下さい。

尚先生の御都合宜しくば今月中にでも当地へ数日御来遊くださいませんか。長良川の鵜飼見物などの御供を致し度(く)思っています。猪飼さんも先生の御来遊を大に希望致して居ります。其の後油絵の方は何か面白いものを御描きになりましたでしょうか。もし何か出来ていましたら御知らせください。当地も昨今はさすがに朝晩冷気を感じる様になりました。

九月七日

敬具

木村定三

熊谷守一様

侍史

書簡〇四一〇 熊谷守一↓木村定三

昭和一六年九月一日 消印…16. 9. 15

御手紙有難を(う)拝見いたしました。皆様御丈夫の御様子御喜び(び)申し上げ(げ)ます。小生此夏は一寸鼻風など引いて居りましてすっかり怠(け)てまして油画も春描きしましたもの一点二科に出品しました(友人野間氏⁴¹にもらつてもらいしました)のを出品いたしました(日本画の方近日出来ました丈御送りいたします。名古屋へよんで下され有難を(う)御座いますか(が)、小生只今の処友人野間氏と一週間位近日写生に行く約束か(が)有りまして行かれそを(う)も有りません。写生に行く日取りはきま(つ)て居りません。皆様に宜しく御伝え下さい。

草々不一

九月十二日

木村定三様

熊谷守一

書簡〇四二〇 木村定三↓熊谷守一(鈴木清氏持参)

昭和一六年一〇月一日 文書目録1479

拝啓 其の後は意外の御無沙汰致しましたが皆様御変り無きことと思います。先日当市にて開催の二科展を見物致し先生の桃の絵も親しく拝見致しました。ポカンとして面白く思いました。其の他では島崎氏⁴²の「トマト」の絵や横井さんの雲雀の絵などは良いと思いましたが総体的には今年の二科は出来が悪いと思います。それから御多忙中甚だ恐縮ですが小生知人の画家鈴木清氏は先生の御宅の近辺に在住して居られ、熊谷先生に時々絵を見て貰い度いと希望にて小生より先生に紹介して呉れとの事につき、甚だ恐れ入りますが御暇の節絵を見てやってください。是非御願致します。末筆乍ら奥様に宜しく御伝声ください。当地昨今防空演習にてごわつています。

敬具

十月十五日

木村定三

熊谷守一様

侍史

41 野間仁根(一九〇一—一九七九)は愛媛県出身の洋画家。二科会で活躍し、熊谷とは二人展もしくは三人展に度々参加した。

42 島崎鶏二(一九〇七—一九四四)は長野県出身の洋画家で、島崎藤村の次男。二科会で活躍した。

43 消印が読めないために正確な日付が不明だが、四銭切手が使われていることから、昭和十二年四月一日(昭和十七年三月末までの期間であろう。昭和十四年一〇月の時点では熊谷の自宅に気軽に訪れるほど親しくはない。昭和十五年一〇月とした場合、名古屋個展の直前の訪問は不自然である。よって、恐らくこの書簡は昭和十六年のものと推定される。そしてこの時に延期された訪問が、一カ月後に実現したのだろう。

書簡〇四三〇 木村定三↓熊谷守一

昭和一六年一月一日⁴³ 文書目録1673

拝啓 今月初小生上京の予定の処都合にて中止致候間 先般御送付被下候
絵の代金未払分(十一枚分) 金参百参十円也送金小切手にて同封致候間
池袋の日本昼夜銀行にて御受取被下度候 乍末筆皆様に宜しく御伝声被下
度候

十一月一日

敬具

木村定三

熊谷守一様

侍史

書簡〇四四〇 熊谷守一↓木村定三

昭和一六年一月六日 消印…16. 11. 6

拝呈 御手紙有難(く)拝見いたしました。同封小切手戴きました。有難を
〔う〕御座います。小生何か図柄の変(わつ)たもの出来ましたら御目に掛け
ます。先日中川紀元⁴⁴氏主催毛筆画会⁴⁵に中川、鍋井⁴⁶、島崎⁴⁷、東郷⁴⁷
に小生各々十六枚出品しまして其れによばれて木曾福島に行きました。小
生親類がそこに居りますので居のこりまして小形ビヨウブに小生丸善展に
出品しました(群鳥)と同じ図柄の絵を描(い)て来ました。小生甲州河口
湖に書生さんが居りますので天気よろしければ明日二、三日のよ定で出掛
けます(油画描き)。皆様に宜しく。

草々不一

十一月四日

熊谷守一

木村定三様

侍史

書簡〇四五〇 木村定三↓熊谷守一

昭和一六年二月五日 消印…16. 12. 5 文書目録1505

拝啓 御高堂益々御清栄之段奉賀候 陳者小生十二月八日御宅へ御伺致し
度存候間 勝手乍ら同日御在宅被下度候

敬具

書簡〇四六〇 熊谷守一↓木村定三

昭和一七年四月二六日 消印…17. 4. 26

拝呈 御手紙拝見いたしました。其后小生すっかり怠(け)て居りますが木
村さんへも少しでも出来ましたら御送りいたします。油絵も出来ましたら
御知らせいたします。御送り下さいました金壹千円小切手戴きました。
坂本繁二郎氏はかけはなれて居りまして様子が明(わか)りませんか〔が〕手
紙にて催促いたします。十八日は小生宅で飛行き見て居ましたら其れを高
シャボウが打ち出し、其れで敵の飛行きと気が付きました様次第です。
皆様に宜しく御つたえ下さいませ。

草々不一

四月二十四日

熊谷守一

木村定三様⁴⁸

44 中川紀元(一八九二―一九七二)は長野県出身の洋画家。二科会で活躍し、戦後は熊谷らと二紀会を創立した。
45 蘇峽四皓会が継続的に主催した「熊谷、鍋井、中川、東郷、島崎五画伯作品頒布会」を指すと思われる。これに関連する資料として文書目録226など、新津文紀からの一連の書簡がある。
46 鍋井克之(一八八八―一九六九)は大阪府出身の洋画家。二科会で活躍し、戦後は熊谷らと二紀会を創立した。
47 東郷青児(一八九七―一九七八)は鹿児島県出身の洋画家。二科会で活躍し、戦後は会長として一時代を築いた。
48 この書簡は「熊谷用箋」と印刷された便箋を使用している。

書簡〇四七〇 木村定三↓熊谷守一

昭和一七年九月一日 消印…9. 14 文書目録1627

拝啓 残暑凌ぎ難き折柄御高堂益々御清栄之段奉賀候 陳者二科院展満州国々宝展⁴⁹等見物の為猪飼さん等と上京致し御宅へも御伺致し度存じ候間九月十七日には誠に恐縮乍ら御在宅被下度此の段御願申候

敬具

書簡〇四八〇 木村定三↓熊谷守一

昭和一七年二月一七日 消印…17. 11. 17 文書目録1689

拝啓 御高堂益々御清栄之段奉賀候

陳者小生其の後意外の御無音に打過ぎ失礼の段御寛容被下度候 承れば先生の大阪にての油絵展⁵⁰は来月十日より十五日までの由今から猪飼さん等と大に楽しみに致し居り候 就而先生の大阪へ御出掛の途中当地へ御寄りくだされ度存候 猪飼さん等と湯の山温泉へでも御供致し度存候 而して大阪へは先生と一緒に参り度存じ居り候 尚小生の弟目下帝大文学部学生に御座候も都合にて近日中に御伺致すやも知れず候 其の節は何卒宜しく御願申候 乍末筆奥様に宜しく

敬具

十一月十七日

木村定三

熊谷守一先生

侍史⁵¹

書簡〇四九〇 熊谷守一↓木村定三

昭和一七年二月一日 消印…17. 12. 1

拝呈 御手紙有難を(う)御座いました。小生大阪油絵展は景色量り十五点で何の見栄も有りません。名古屋へは来月九日の朝着きまして御尋(ね)致します心組ですが御都合如何ですか。小生相変らず□□皆様に宜しく御伝え下さい。

草々不一

十一月三十日

熊谷守一

木村定三様

書簡〇五〇〇 木村定三↓熊谷守一

昭和一七年二月六日 消印…17. 12. 6 文書目録1696

拝啓 時下寒冷の候と相成り候も御高堂益々御清栄の段奉賀候 過日は御手紙有難く拝見致し候 九日には御待ち致し居り候間何卒御出で被下度候 尚箱書御願致し度候間 筆 墨 印等御持参被下度候

敬具

書簡〇五一〇 北川民次↓熊谷守一

昭和一八年五月一日 文書目録1778

昨日で展覧会⁵²を終わりました。皆様の御尽力で四千円許りの赤札となり喜んでおります。

木村さんも大変御厚情賜り、御買上げは下さいませんですが沢山の人々

49 上野・表慶館で九月一〇日～二五日に「満州国十周年慶祝満州国宝展」が開催された。

50 大阪・天賞堂画廊での熊谷守一近作油絵展は二月一二日～一五日まで開催。

51 封筒表に熊谷メモ「十二月九日 返」あり。

52 北川民次画伯小品展には「熊谷先生の像」はじめ油彩二〇点、「花売娘」はじめ一八点の日本画、一九九六年、二〇〇頁。なお、書簡は北川の自宅からではなく、松坂屋から発信されている。

ほかに番外として二点の合計四〇点が出品された『北川民次展』北川民次展実行委員会、

を御紹介下さいました。そしていろいろ御忠告下さいました段、特に有難く存じました。

頓首

書簡〇五二〇 熊谷守一↓木村定三 消印…18. 7. 5
昭和一八年七月四日⁵³

拝呈

御無音に打過ぎ(ぎ)で居ります。今度うらうちしました紙へ同し(じ)様な図柄の画去る一日に十七枚小包で御送りいたしました。若し御氣に入るのか(が)有りましたらとつてを(お)いて下さい。猪飼さん所へは十枚御送りいたしました。御子供さんも大きくなりました事と存し(じ)ます。皆様に宜しく御伝え下さい。

当地は雨量り降(つ)で居ります。小生右肩の神経痛にかかつて居りますが大した事有りません。

七月四日

草々不一

熊谷守一

木村定三様

書簡〇五三〇 木村定三↓熊谷守一
昭和一八年七月七日 消印…18. 7. 7 文書目録1822

拝啓 其の後永らく御無沙汰致して居りました処、去る四日日本画沢山御送りくださいまして大に喜んで居る処です。

小生の最も感服致しました絵は「烏の三匹居る富士の絵」⁵⁴と「三匹の亀

⁵³ 消印などがなく正確な日付が不明だったが、切手の料金と前後の文脈から昭和一八年と判断した。

⁵⁴ 《富士山に鳥》(M244)の文と推測される。

⁵⁵ 《山吹に蜂》(M277)の文と推測される。

⁵⁶ 《富士秋景》(M265)のことと推測される。

⁵⁷ 封筒表に熊谷メモ「馬の色紙五、六枚」、裏に「八月十日」あり。

虫が居る草の絵」と「蜂の巣に蜂のとまつている絵」⁵⁵の三点です。其の他良い絵と思いますのは亀虫(大の方)、雨蛙の沢山いる絵、「富士に柿」⁵⁶の絵、「富士山の頂の上の方のみ青く塗り他は全部鉛筆の絵」等です。他の絵は一寸ちかんでいるか(黄金虫、米搗虫)乱暴すぎる(墨絵の富士山等)様な気が致します。

猪飼さんの絵では、地蜘蛛、丁斑魚が良い絵だと思います。其れからいろいろ歌の書は非常に良いと思います。

尚先般阪急にて日本画の個展を御やりになりましたそうですが当地にても近い中によつて頂きたいです。小生雑用が出来て遂に阪急の絵は拝見出来ませんでした。残念に思つて居ます。それから以前にも御願したと思ひますが馬の絵を五、六枚色紙に描いて頂き度く是非御願致します。

尚本日頂きました御手紙に依れば神経痛の由承りましたが神経痛には信州の洪温泉が大変昔から効果があると云われて居ります。其で来月十日より約一週間猪飼さんと共に先生の御供をして信州上林温泉(洪温泉と約十町程の場所です)へ参りたいと思つています。万障御繰合(せ)の上是非御出かけください。猪飼さんと一緒に御迎(むか)ひに参る積りです。

奥様に宜しく御伝えください。

先つ(ず)は御礼まで。

敬具

木村定三

熊谷守一様
侍史⁵⁷

書簡〇五四〇 木村定三↓熊谷守一
昭和一八年七月一七日 消印…18. 7. 17 文書目録1836

拝啓 其の後御無沙汰致して居ります。皆様御変りありませんか御伺申し

ます。

当地は最近梅雨も終り連日暑い日が続いて困って居ります。然し稲の為には良いそうで其の点有難い事だと思ひます。

それから先日御送付くださいました日本画の中、富士山の絵二枚と虫の絵一枚失礼乍ら御返送致しましたが不悪御諒承ください。

此の三点の富士の絵は余り乱暴で引き締って居りません。虫の絵は固すぎます。其の後毎日先生の絵を額に入れて見て居ますが、今度の絵の中で一番良い絵は鳥の三匹居る富士山の絵と決定致しました。猪飼さんは柿に富士山の絵が第一だと云いますが僕はその絵は三、四番目位だと思ひます。先生の御意見は如何ですか。

それから来月の信州旅行⁸⁸は尚詳しい事は来月になつてから打合わせ致しなく思つて居ります。皆様に宜しく。

敬具

木村定三

七月十七日

熊谷守一様

侍史

書簡〇五五〇 熊谷守一↓木村定三

昭和十九年三月八日

拝呈 久しく御便りも書きす〔ず〕失礼して居ります。先日御手紙拝見いたしました。先月下旬東本氏参られ横物三十二枚もつて行〔つ〕てもらいました。色紙は去る三日に小包で二十三枚貴宅へ御送りいたしました。御手紙に半切も描く様に有りましたが、失念して失礼いたしました。其后東本氏手紙に木村さん子供さん御病気の由□して来ましたか〔が〕如何か〔が〕ですか。御大事にして下さい。

当地の様子も大分変りましたか〔が〕小生相変らず〔ず〕ふ性〔不精〕して居り

ます。皆々様よろしく御伝え下さい。

昭和十九年三月八日

木村定三様

熊谷守一

草々不一

書簡〇五六〇 熊谷秀子↓木村定三

昭和二十五年七月五日 消印…25. 7. 5

平素は御無沙汰ばかり致して居りまして申訳ございません。此度も又主人個展をお催し下さいまして何かと御配慮いただきまして有難う存じます。厚くお礼申上〔げ〕ます。其節は主人娘共々おじゃまいたしまして大変おさがせ申上げました。いろいろおもてなしいただきまして有難う存じます。我儘ものの娘の事とてさぞかし御厄介をおかけ致しました事かとすまなく存じて居ります。御地での御様子いろいろお伺いさせていただきます。嬉しく存じました。お子様方大変お可愛くお元気でいられます由お幸せでいられます。お暑さに向〔か〕います折柄皆々様何卒御体御大切の程念じ上げます。失礼乍ら手紙にてお礼のみ申上げます。

七月四日

熊谷秀子拝

木村定三様

御奥様

二仲 主人帰宅の際には結構なお品を頂戴いたしましたして有難うございます。

書簡〇五七〇 熊谷守一↓木村定三

昭和二五年一〇月二八日

拝呈 九月十日御手紙有難く拝見いたしました。小生其后二紀会へ亡くした娘の顔の画八号⁵⁹を出しました。別に阪急百貨店半弓会に四号横の裸出しました。御端書拝見いたしました。御上京の由御待ちして居ります。出来る丈け描(い)て置きます。御上京早ければ(ば)何も出来て居なかつたりしないかと心配して居ります。小生此の秋右足のひざ寒く成(つ)ていたので外へ歩きが出来ませんのでふ便な事です。皆様に宜しく御伝え下さい。

十月二十八日

草々不一

木村定三様

机下

熊谷守一

書簡〇五八〇 熊谷守一↓木村定三 消印…26 1. 30

昭和二六年一月三〇日

拝呈 一月十日の御手紙と二十八日の御端書拝見いたしました。いつもながら筆ふ性(不精)いたし居り失礼量りして居ります。御送付下さいました金五千円戴きました。有難を(う)御座います。皆様御元氣の事と存じます。小生処皆無事で御座います。小生元氣で御座いますか(が)足は未(だ)好くならず外の出歩きは出来ずです。そろそろ元氣を出して何か描き出します。クレパス画⁶⁰近日描いて御送りいたします。当地此冬は連日天気つづきで御座います。奥様始め皆様に宜しく御伝え下さい。

一月三十日

草々不一

木村定三様

机下

熊谷守一

書簡〇五九〇 熊谷守一↓木村定三

昭和二八年一月九日

あけましておめでとう御ざいます。其后細々した用事やら冬支度をして居りました処暮れに夫婦して流感にかかりやつと只(今好(く))なつた所です。画は何も出来て居りませぬか(が)これから描く所です。大橋さんにも宜しく御伝え下さい。当地は一(か)月位天気つづきでした。昨日一寸小雪がありました。奥様にも宜しく御伝え下さい。榎は昨日から信州へスキーに行(つ)て居ります。

昭和二十八年一月九日

草々不一

木村定三様

机下

熊谷守一

書簡〇六〇〇 熊谷秀子↓木村定三

昭和二九年八月一八日 消印…29 8. 18

大変永く御無沙汰申して居りました。其後一度おたづね申上げた存じ乍ら失礼に打過ぎ居りまして申訳け御座いませぬ。今夏は異常な冷温で案じ居りましたが昨今ようやく夏らしい日照りが続くようになりほつと致しましたがなかなかお暑さ凌ぎにくく御地では猶更の事と存じ上(げ)ます。御家内様御一同様お元氣でおいでいられますか。奥様には其後お障りも

59 第四回二紀会(一九五〇年一〇月一〇日―一〇月二七日)に出品した《萬の像》(個人蔵)のこと。
60 コレクションの中には《普賢菩薩》(ID200200021000)・《千手観音》(ID200200022000)などクレパス(クレヨン)で描かれた作品が計六点ある。

なくお過しで御座いまいしうかお伺い申し上げます。当方お蔭様で皆無事に暮し居ります。主人は春以来ずっと旅行も致しませず家にばかり居りまして自分では仕事をして居るのだと申し居りますが未だ一枚も出来た画は御座いましてそばのものは気をもんで居る次第で御座います⁶¹。酷暑の折柄皆様御体御大切の程念じ上げます。

書簡〇六一〇 熊谷秀子↓木村定三 消印…31. 9. 25
昭和三十一年九月二十五日⁶²

大変永い間御無沙汰いたしまして申し御座いません。八月には白骨温泉からおはがきをいただき、又先程は御手紙を頂戴いたしまして有難うございました。

御家内様御一同お元気にお過しの事とお喜び申上げて居ります。今度樫のはりえ展をお世話いただきまして有難うございました。此度の絵は初めの四、五点を見て居りますだけで、それではあまりよい出来でないようでしたので其後のどんな出来かと案じまして御地へ出向きます前に、一度宅へ寄るよう申しやりましたがそのまま御地へお伺い致したようで、あまりひどい作ですと心配致して居りましたがお蔭様で大変よい成績で御座いました由、私共も喜んで居ります。殊に四、五点は見られるのがありました由で安心いたしました。一方ならぬ御心ぞえをいただき又会期中御厄介になりました事と厚くお礼申し上げます。会が終りましたら宅へも様子を話しに来てくれるかと思ひ居りました処いまだに見えません。お手紙によれば御地から木曾の方へまいりました由、まだ家へは戻りませんかと存ぜられます。お蔭様で主人も今年に入ってから目まいも御座いませず、ずっと元気にいたして居ります。仕事の方はあちこちの展覧会の画に追われて居りまして、個展の話はまだはかどりません。二十一日に猪飼様お越しの節三点お持ちいただきましたが十、十一月はいろいろの展覧会が御座いますので名古屋展はなるべくおそくしていただいた方が好都合と申上げました

次第で御座います。日本画の方も今年は少しがんばって描いてもらいたいものと存じて居ります。猪飼様、宅へお越しの節大分御気分がおわるい御様子で一寸おやすみになったりなされまして、大した事はないとおっしゃって夕方歌右衛門様のお向(迎)えの車でお帰りで御座いましたが其後如何かとお案じいたして居ります。ここのうやくさわやかな秋晴れがつづきまして彼岸花もさかりで御座います。皆々様一層お元気でおいで下さいますようお願い申し上げます。

九月二十四日

木村定三様
御奥様

熊谷秀子拝

書簡〇六二〇 熊谷守一↓木村定三
昭和三十三年五月二日 消印…32. 5. 22

拝呈 御手紙も書かず失礼量(ばかり)して居ります。御元気の御様子御喜び申し上げます。小生体の方も相変らずで御座いますが、もを(づ)青葉のよい時候になりましたが画の方道草量り喰(づ)て居りますが、此夏は大量に描きたいと思(づ)て居ります。皆様に宜しく御伝え下さい。

五月二十一日よ(夜)

草々不一

熊谷守一

木村定三様
机下

61 この年、熊谷は第一九回清光会展(五月一日〜六日、銀座・資生堂)に《牛》、《桃》の二点、第一回現代美術展(五月一九日〜六月五日、東京都美術館)に《土饅頭》(JC202000+2000)、第四回五都連合日本画洋画展(一月一日〜二日、東京美術倶楽部)に《ハルシヤ菊》(M235)を出品している。
62 消印の判読が困難だが、使用された切手の発行年から昭和三十一年と判断した。

書簡〇六三〇 熊谷守一↓木村定三
昭和三十三年四月二三日 消印…33. 4. 23

拝呈 今度の個展いろいろ有り難を(う)御座いました。小生相変らず筆ふ性(不精)申しわけありません。奥様御養生の事と存じますが其后如何で御座いますか。小生所先日より夫婦で風(邪)引き長びいて居ります。木村様この二十六日か七日御上京の由ですが日本画まだ一枚も出来て居ず心もない事ですが御まち申して居ります。

蕪村画見ましたが夜の雪景は一寸さびし過ぎ(ぎ)まして、小生には富士の前松の木ある方が明るくて好きです。外(他)にふ出来の絵、烏でないかと思いました。今日のこちらは夏の様なよを(う)気で御座います。皆様に宜しく御伝え下さい。

昭和三十三年四月二十二日

草々不一

熊谷守一

木村定三様

机下

書簡〇六四〇 猪飼正一↓熊谷守一
昭和三十五年二月一〇日 文書目録2030

熊谷守一 個人展 二月二三日―十八日 名古屋松坂屋八階ギャラリー⁶³

書簡〇六五〇 熊谷秀子↓木村定三 消印…36. 5. 19
昭和三十六年五月一九日

十一日付書留便御手紙拝見いたしました。御同封下さいました三十三万円小切手、確に頂戴いたしました。有難う御座います。御宅様皆様お元氣

63 この書簡(図18)は、木村定三と猪飼正一が共同で主催した熊谷の個展に際して出された案内状(印刷物)と思われる。

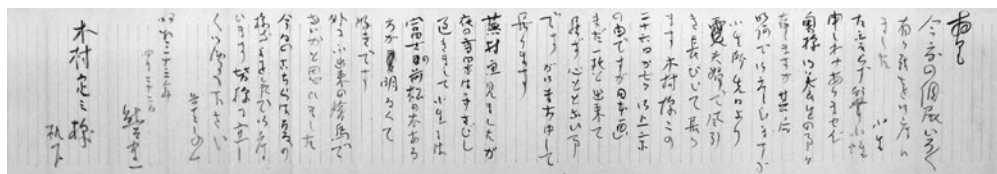


図2 書簡0630



図18 案内状(書簡0640)

にいられます御様子何よりと存じ上げます。お蔭様で宅の主人もずっとやすみます事もなく少しづ「ず」つ乍ら仕事をつづけて居ります。いつの間にか木々の緑もすっかり濃くなつてしまひまして、この処梅雨空の日が続いて居ります。ぼたんは今年は見事な花を五つもつけましたが、もう散つてしまひまして只今はバラと紫蘭が庭を色どつて居ります。柚の花ももうぢ「じ」き匂つてまいます。

先日木版の加藤氏から画集の中から五点六号大の木版にさせてほしいとのまれました。

木村様お持ちの猫もお願ひしたいと申されていましたが如何でございましょうか。その内お伺ひしたいとの事でございます。時節柄お体お氣をつけ下さいますようお願い申し上げます。

五月十九日

木村定三様

熊谷秀子拝

書簡〇六六〇 熊谷守一↓木村定三

昭和三八年一月二三日 消印…38. 1. 23

拝呈 皆様御きげん如何ですか。先日は毛布御贈り下され有難を「う」御座います。今年の冬は寒いのでよわつて居ります。木村様行の画気にしながら何も出来て居「ら」す「ず」申しわけ有りませぬ。小生歩くのがふ自由の外「他」、無事に暮「ら」して居ります。画は描「い」て居りますがろくなものは出来ませぬ。皆様に宜しく御伝え下さい。

一月二十二日

草々不一

熊谷守一

木村定三様

机下

*書簡資料の公開に当たっては細心の注意を払って行いましたが、著作権等について何かお気付きのことがありましたら、愛知県美術館までご連絡ください。